

## 奉仕者（神楽の舞手）

高千穂地域では、神楽において舞手を演じる人は奉仕者（ほしや）と呼ばれます。多くの舞手は、小学生など小さい頃から練習を始め、地元の神楽師から指導を受けます。公演のないときは、奉仕者は、様々な職業を持つ地域の一員です。

昔、奉仕者になれるのは、地元の家族の長男に限られていました。これは、日本の風習によるもので、長男の多くは商売や財産の継承者だったためです。しかし現在では、ほかの地域から移り住んだ人など、様々な経歴を持った奉仕者が増えてきました。

## 神庭（神楽の舞台）

神庭（こうにわ）は、夜神楽の夜に儀式に降りてこられた神をお迎えするための神聖な場所です。入口は、舞人や世話役以外は入ることができません。伝統的に、神庭は選ばれた民家に造られ、年ごとに順番に場所が変わります。最近では、徐々に公民館で奉納されるようになりました。